

2024 年 12 月 3 日 全 7 頁

消費データブック（2024/12/3 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慈陽
エコノミスト 中村 華奈子

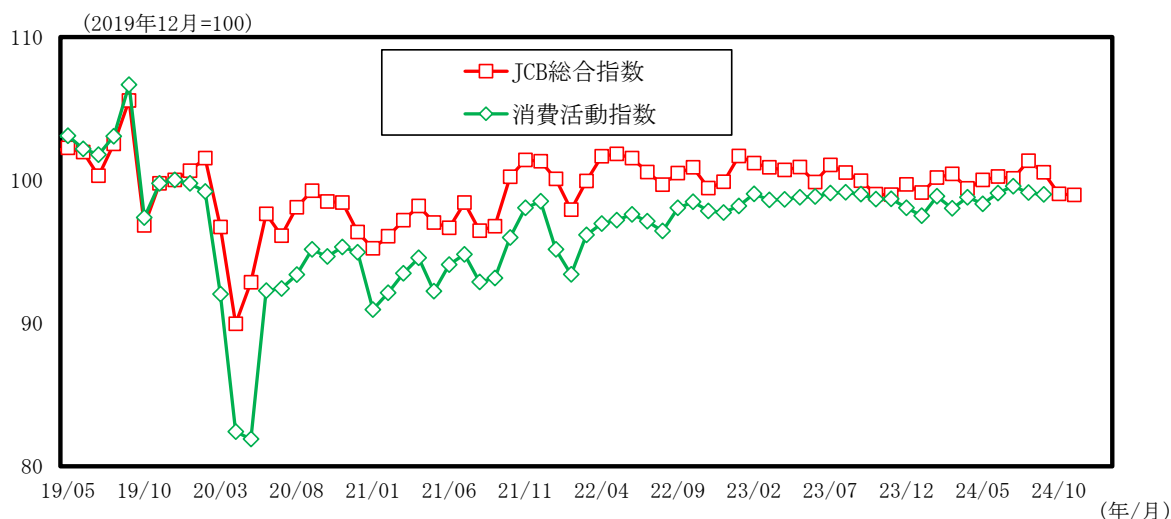
〔要約〕

- 2024 年 10 月の消費は 9 月から横ばい圏で推移したとみられる。財・サービスともにまちまちの結果だった。財消費では、百貨店やアパレル各社の販売額に弱さが見られたが、新車販売台数や家電などは 9 月から増加した。サービス消費では、宿泊関連が好調だった一方、外食関連は振るわなかった。
- 11 月の消費は 10 月から横ばい圏で推移したとみている。財消費はまちまちだ。百貨店大手 3 社やアパレル大手しまむらでは、気温の低下による季節商品の販売が好調で、売上の前年比はいずれも前月から改善した。一方、新車販売台数は一部工場の停止等を受け 3 カ月ぶりに減少した（大和総研による季節調整値）。サービス消費では、新幹線輸送量に弱さが見られた。他方、JCB が集計した宿泊消費額と外食消費額は 10 月から大幅に増加した（いずれも大和総研による季節調整値）。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】 24 年 11 月 の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値、JCB データは以下）によると、実質消費額は前月比▲0.1%だった。内訳を見ると、財は前月から増加した一方、サービスが減少した。

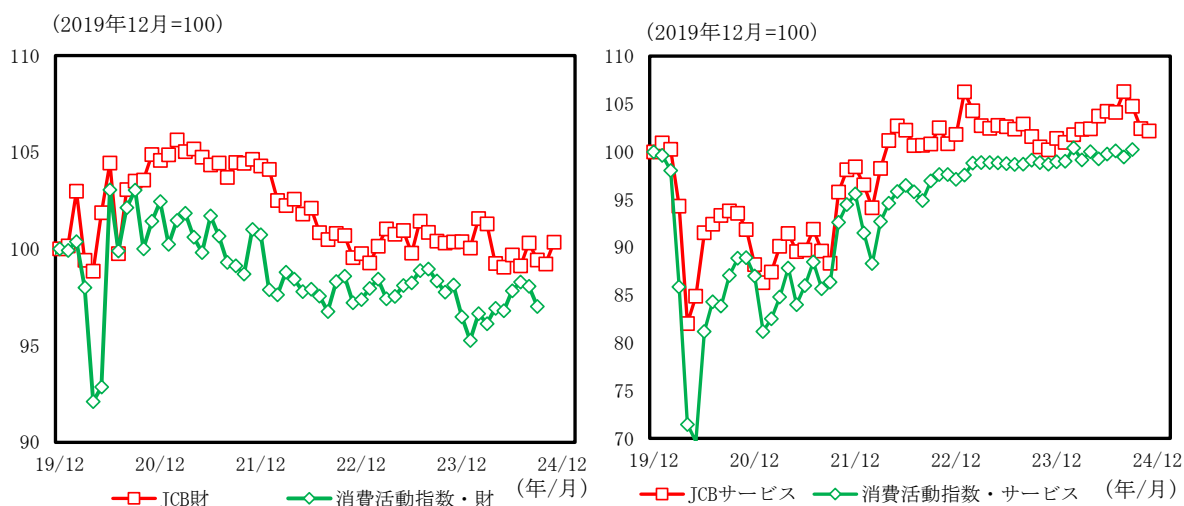
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 11 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 11 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

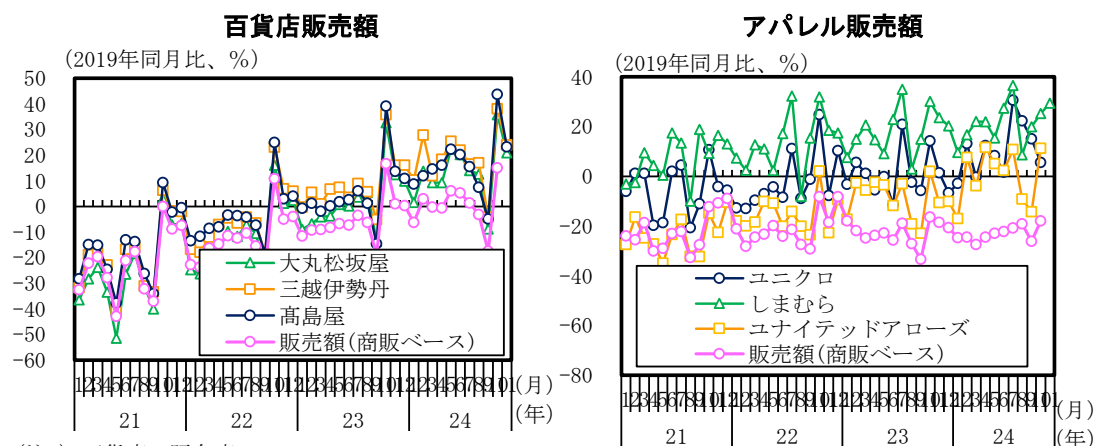
(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 24 年 10 月の百貨店商品販売額（商販ベース）は、コロナ禍前の 19 年同月比で伸び率がプラスに転じた。ただし、前年比では 9 月から伸び率が低下した。24 年 11 月の百貨店大手 3 社の既存店売上高は同+21～+24%と伸び率は低下も、前年比で見れば伸び率が上昇した。気温低下による季節商品の販売が好調。
- ◆【アパレル】 24 年 10 月のアパレル販売額（商販ベース）は 19 年同月比で前月からマイナス幅が縮小。24 年 11 月のしまむらの既存店売上高は前月から伸び率が上昇。気温の低下により季節商品の販売が好調だったほか、通季の実用品の売上が伸びた。

図表 3：百貨店・アパレルの販売額



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

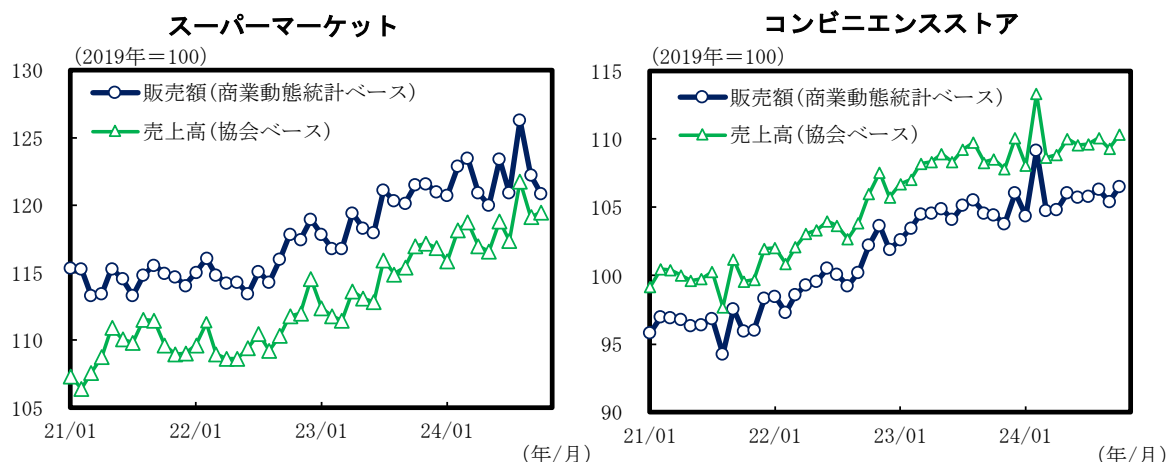
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、20年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 24 年 10 月の販売額は前月比▲1.1%（大和総研による季節調整値）。衣料品や商品券などの販売額が減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 24 年 10 月の販売額は前月比+1.0%（大和総研による季節調整値）。加工食品や非食品などの販売額が増加。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

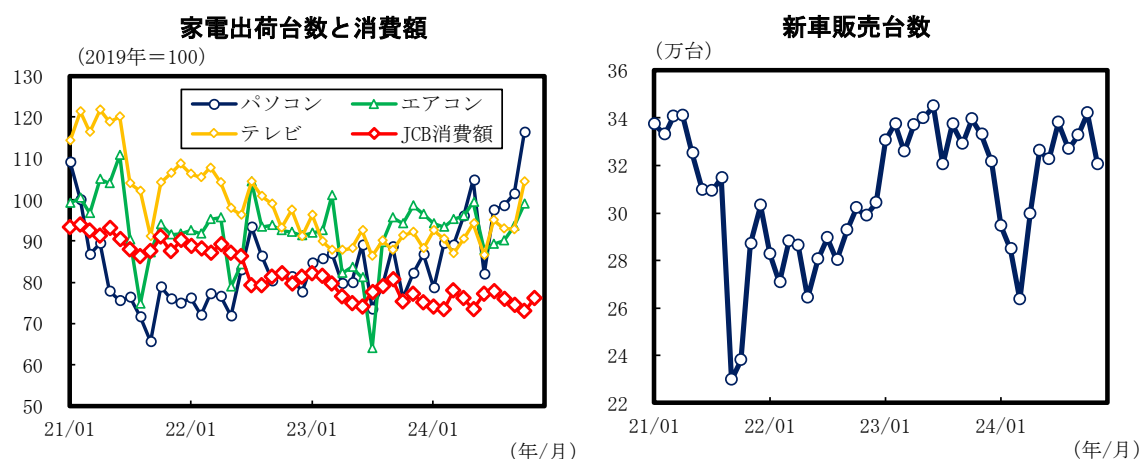


(注) 売上高（協会ベース）は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】24年10月の出荷台数はパソコンが前月比+14.7%、エアコンが同+5.6%、テレビが同+12.4%（いずれも大和総研による季節調整値）。24年11月のJCB消費額（機械器具小売業）は同+4.4%と4カ月ぶりに前月から増加。
- ◆【自動車】24年10月の新車販売台数は前月比+2.8%（大和総研による季節調整値）。24年11月は同▲6.3%と3カ月ぶりに減少。認証不正問題後の挽回生産が進展しているものの、11月は設備の確認作業によりトヨタ自動車の国内の一部工場が5日間停止した影響が表れた可能性がある²。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。24年11月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

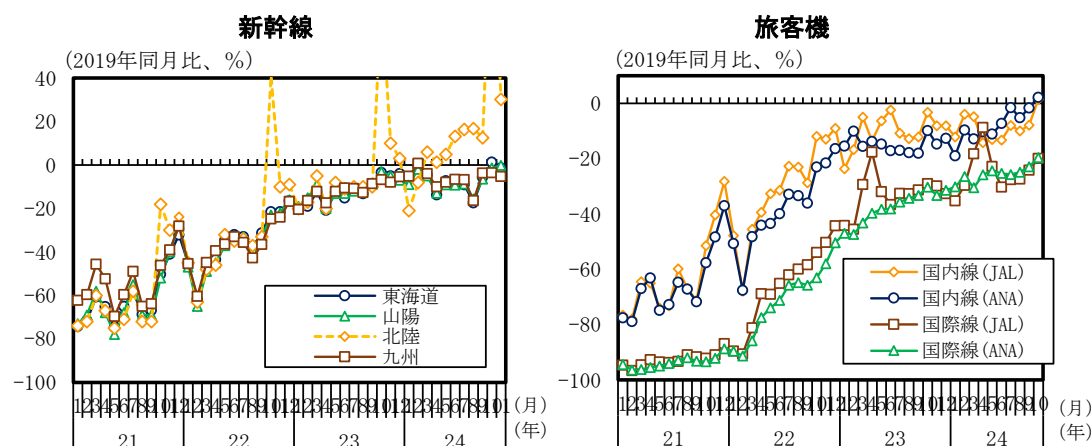
(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

² 詳細は、石川清香「[2024年10月鉱工業生産](#)」（大和総研レポート、2024年11月29日）を参照。

<サービス関連>

- ◆【新幹線】24年10月の輸送量は19年同月比▲4～+121³%程度。24年11月の輸送量は山陽以外では伸び率が前月から低下。
- ◆【旅客機】24年10月の国内線輸送量は19年同月比で+1～+2%程度と初めてコロナ禍前の水準を上回った。国際線輸送量は同▲20%程度と前月からマイナス幅が縮小。堅調な観光需要や旅客便供給量の拡大⁴が押し上げ要因となった。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況

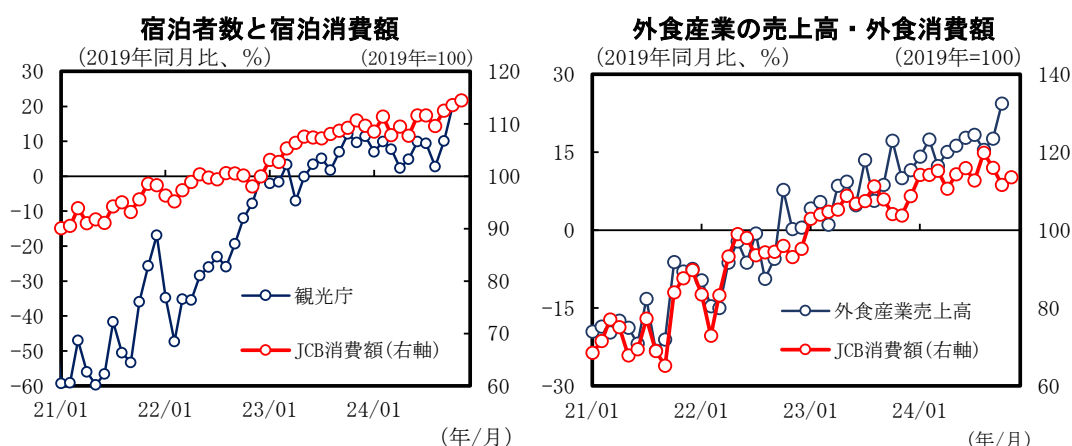


(注) 24年11月の東海道、山陽、北陸は21日、九州は28日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】24年10月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は19年同月比+20.1%と前月からプラス幅が拡大。24年11月のJCB宿泊消費額は前月比+0.8%。
- ◆【外食】24年10月の外食産業の売上高は19年同月比+24.3%と前月からプラス幅が拡大（ただし前年比では伸び率が低下）。24年11月のJCB外食消費額は前月比+1.7%。

図表7：国内宿泊者数と関連消費額（左）、外食産業の売上高と関連消費額（右）



(注) 大和総研による季節調整値。24年11月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。

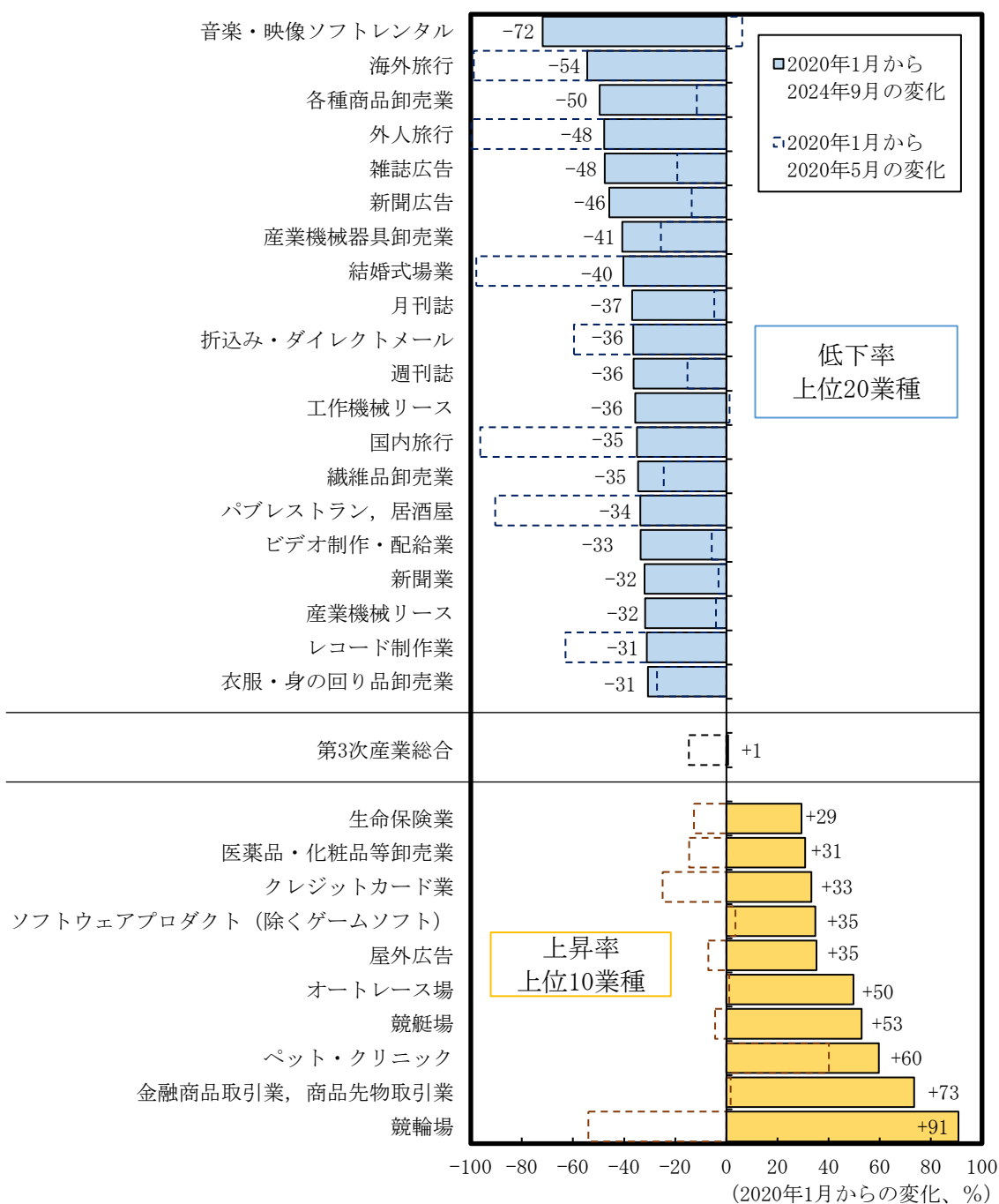
(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

³ 北陸（19年同月比+121%）については、台風19号による浸水被害の影響で19年同月の水準が低かったことが原因とみられる。

⁴ JAL「[JAL、2024年度下期路線便数計画を決定](#)」（2024年8月20日）、ANA「[2024年度下期ANAグループ航空輸送事業計画を一部変更](#)」（2024年8月20日）

<参考：第3次産業活動指数>

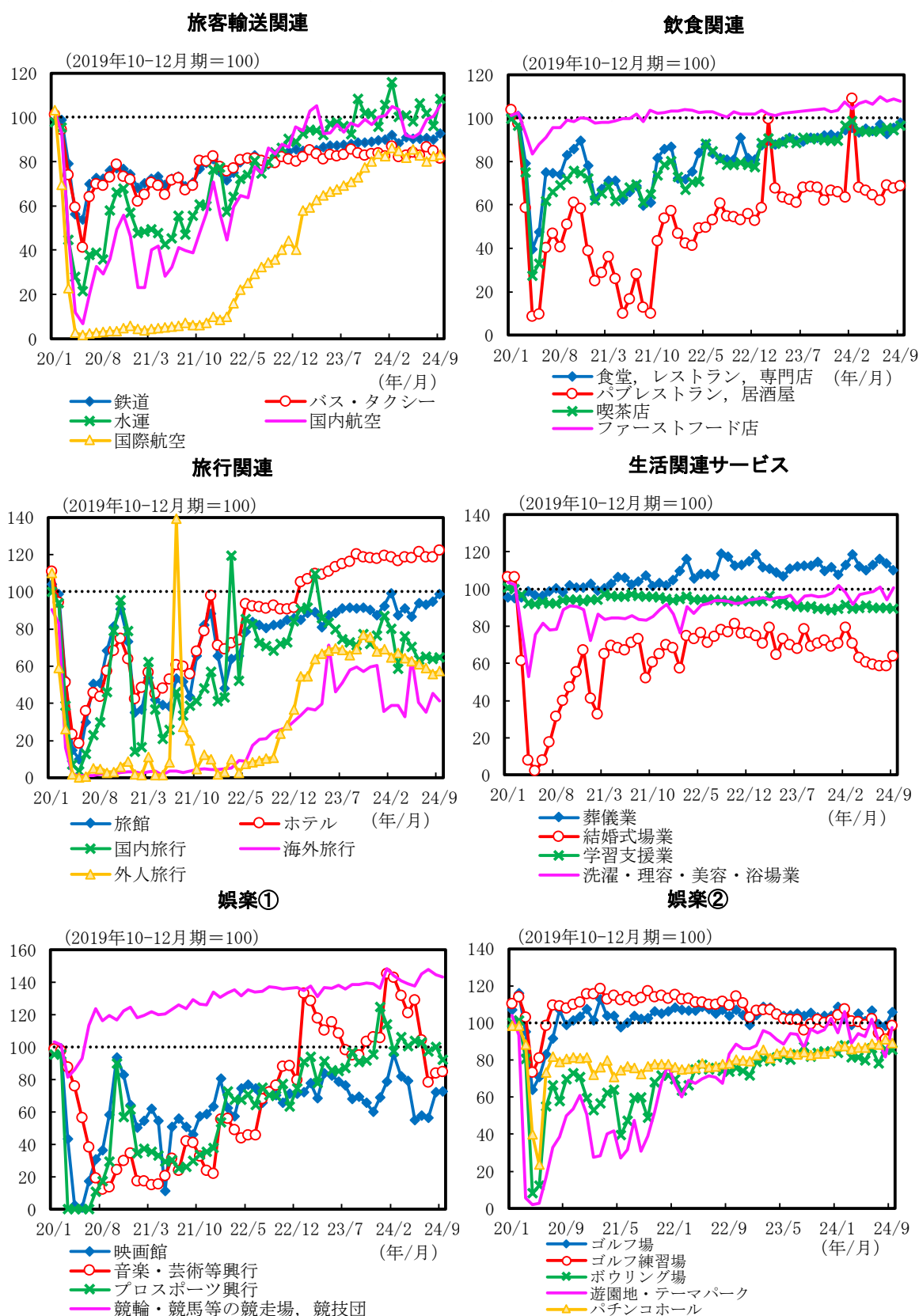
図表 8-1：第3次産業活動指数（2024年9月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2024年9月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2：運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成